

同志社大学

2010年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2011年7月19日提出

所 属	職 名	氏 名
グローバルスタディーズ研究科	教授	池田啓子
研 究 題 目	1) 現代アメリカにおける歴史パフォーマンスとコレクティブ・メモリーの構築 2) イリノイ大学国際アメリカ研究フォーラムとの共同研究 “Japan” in U.S. and the “U.S.” in Japan: the role of National Identity in Global Circuits of Consumption and Exchange	
研 究 成 果 の 概 要	1) 8月にボストンとその近郊でフィールドワーク（参与観察・インタビュー）を行い、そのデータの整理と分析をすすめている。その成果の一部を11月の全米人類学会（American Anthropological Association）の年次大会における Presidential Panel（学会長が招待する名誉あるパネル）で発表した（病気のために代読）。このパネルは、イスラエルやヨーロッパなどから著名なアメリカを研究する人類学者を招聘したもので、世界的に有名なスウェーデンの学者ウルフ・ハナーツもパネリストとして参加した。パネルタイトルは、AMERICA OBSERVED: ETHNOGRAPHIC PERSPECTIVES FROM THE OUTSIDE WORLD。発表した論文のタイトルは、US STUDIES FROM THE PERSPECTIVE OF TRANSPACIFIC COMMUTER FLIGHTS: POWER AND IDENTITY IN THE PRODUCTION AND CIRCULATION OF ANTHROPOLOGICAL KNOWLEDGEである。 2) この研究は、アメリカ研究所部門研究として行っているものであるが、IFUSSからも部門研究と同じだけの研究費を得、日米の研究チームが協働している。今年度は、主に、資料およびデータ収集、そして日米文化交流の年表作成などを行った。この研究チームには、複数のハーバード大学の教員が参加していることから、8月にはハーバード大学に研究チームが集まり、セミナーを行い、成果報告、今後の方針の決定などを行った。また、部門研究5の活動として行った国際シンポジウム、PACIFIC CROSSINGで発表された論文をまとめ、同志社アメリカ研究の別冊として出版するための編集作業を完了した。	